

編集後記

■編集委員 (50 音順)

出 月 康 夫	北 島 政 樹	北 野 正 剛	小 西 文 雄
白 日 高 歩	堤 治	万 代 恭 嗣	東 原 英 二

本邦において、腸疾患に対して腹腔鏡下手術が導入されたのは 1992 年頃のことであろう。それから 10 年の歳月が過ぎ、腸疾患のなかでも大腸癌は胆石症につぐ腹腔鏡下手術の適応疾患となった。当初、欧米で腹腔鏡下手術の対象とした大腸癌の大部分が進行癌であったが、技術的に成熟していないにもかかわらず腹腔鏡下手術を導入したために、いわゆるポートサイト・リカレンスという本術式に特有な再発を招いた。残念ながら、この再発形式が欧米ではきわめて問題視され、大腸癌に対する腹腔鏡下手術の普及が一時的に妨げられた事実は否定できない。一方、本邦では欧米とは異なる過程を経て、腹腔鏡下腸切除術は普及してきた。すなわち、腹腔鏡下手術が早期癌を適応として認知され、内視鏡的切除と開腹手術の隙間を埋め合わせる新しい手術手技として位置づけられ、そののちに、手技の進歩にともない徐々に進行癌に適応が拡大されていった。もし、欧米でも早期癌が一般的であったなら、同様の経緯を経て腹腔鏡下手術がもっと速く普及したかもしれない。本邦においては、腹腔鏡下手術が独自の過程を経て普及してきたことが、安全な手術手技の向上、腹腔鏡下解剖学の重要性の認識をもたらしたと言えよう。これは開腹手術における精緻な手術手技が土台にあってこそ成し得たものである。現在は腹腔鏡下手術の低侵襲性のみならず、拡大視効果を利用した精密なリンパ節郭清や神経温存にこの手術の意義を見出すまでに至った。

確かに一部の施設では開腹手術以上の郭清が可能となり、そのような施設では進行癌への適応の拡大を考慮する時期にきているかもしれない。しかし、腹腔鏡下手術が進行大腸癌の標準手術となるには、まだまだ乗り越えるべき障壁がある。いまだにポートの穿刺部の決め方も定まらず、視野の確保に難渋し、腹腔鏡下解剖の理解に迷っている施設が少なくないのが現状である。また、腹腔鏡下腸切除術が盛んに行われている施設でさえ、入院期間をはじめ低侵襲性についてのデータは明らかではないし、10 年間の長期成績も定かではない。欧米では新しい術式に対して、常に統計学に基づいた科学的根拠を求めており、その意味では残念ながら、本邦では経験論を述べているにすぎない論文が多い。本邦は、開腹手術における手術手技では世界をリードしてきたが、昨今の内視鏡外科のビデオを観るにつけ、この分野でも国際的にトップレベルに到達した感がある。ただ、本術式の普及の過程で欠落していたことは、これまで少数の精鋭を育成することには成功したが、技術の一般化には至っていないことである。また、study として欧米に発信するだけの計画性と集中力を欠いていたこともあげられる。今後、日本内視鏡外科学会の主導の下に教育や研究におけるシステムの充実を成し得れば、大腸癌における腹腔鏡下手術においても、わが国こそが世界をリードできるものと確信している。

(北島政樹)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第 7 巻 第 1 号) 2002 年 2 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 (本体 2,700 円 + 税) (配送料 85 円) となります。

2002 年 年ぎめ予約購読料：16,500 円 (配送料：医学書院負担)

編集・発行：日本内視鏡外科学会 (代表：出月康夫)

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 (財) 日本学会事務センター内

(☎ 03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当：佐々木、高柳) <http://www.hop.ne.jp/~jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8622, Japan

©2002. Printed in Japan

発 売：(株)医学書院 (代表：金原 優) (本誌担当：田村、中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意下さい。